

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-281390

(P2005-281390A)

(43) 公開日 平成17年10月13日(2005. 10. 13)

| | | |
|-------------------------------|------------|-------------|
| (51) Int. Cl. ⁷ | F I | テーマコード (参考) |
| C08L 21/00 | C08L 21/00 | 4F212 |
| B29D 30/30 | B29D 30/30 | 4J002 |
| B29D 30/52 | B29D 30/52 | |
| B60C 1/00 | B60C 1/00 | A |
| C08K 9/00 | C08K 9/00 | |
| 審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 12 頁) | | |

(21) 出願番号 特願2004-94590 (P2004-94590)
 (22) 出願日 平成16年3月29日 (2004. 3. 29)

(71) 出願人 503002662
 小川 一文
 徳島県板野郡土成町土成字寒方50-3
 (72) 発明者 小川 一文
 徳島県板野郡土成町土成字寒方50-3
 Fターム(参考) 4F212 AH20 VA02 VD04 VK02 VK32
 VL11 VL27
 4J002 AC011 AC031 AC061 AC071 AC081
 AC091 BB151 BD122 BD152 CP032
 FB002 FD010 FD020 GN01

(54) 【発明の名称】 タイヤとその製造方法及びそれを用いた自動車

(57) 【要約】

【課題】 降雨時、積雪時、あるいは氷結時の道路を、自動車で走行する場合に問題になるのが、タイヤ表面と接触する路面最表面の水膜である。この水膜を除けば、タイヤは、アスファルト、アイスパーン等と直接接触し、大部分のスリップ事故は防げることが知られている。そこで、タイヤそのものに、走行時に路面最表面の水膜を自動的に押し退けながら進む機能を付与して、降雨時、積雪時、あるいは氷結時のスリップ事故を防止することを目的とする。

【解決手段】 前記目的を達成するため、本発明のタイヤは、降雨時、積雪時、あるいは氷結時の道路走行時に、タイヤが自動的に路面最表面の水膜を押し退けながら走行できるようにするため、タイヤを構成するトレッドゴムの接地部を撥水性にしておくことを要旨とする。

【選択図】 図1

